

# エコスタイル（クールビズ）を実施中

5月1日(木)～10月31日(金)



エコスタイル（クールビズ）とは、夏向きの半袖シャツなどを着用し、

上着やネクタイなどを着用しない服装の事です。

市では、過度な冷房に頼らず夏を快適に過ごす工夫の一環としてクールビズを行い、省エネ・省CO<sub>2</sub>を推進しています。

## ●問い合わせ先

循環型社会推進課ゼロカーボン推進担当

☎(580)1886

## スタードームまどかに行こう



### 季節イベント 細い月とカニの泡



月がちょうど「かに座」で輝いています。望遠鏡や双眼鏡で眺めると、カニの泡みたいな星の集まりが見えるかもしれません。

- 日時 5月31日(土) 午後7時～8時50分
- 会場 北コミュニティセンター スタードームまどか
- 内容 ◇春の星の観測◇月の観測  
※中学生以下は、保護者が同伴してください。  
※雨天曇天時は、室内おはなし会となります。

## ●問い合わせ先

北パートナーシップ活動支援センター（北コミュニティセンター内）

☎(513)0099

あけてみよう！

## 歴史のとびら

188

### 大野城心のふるさと館のおすすめ⑰

#### 竹田家文書の紹介③

昨年奈良国立博物館で「第76回正倉院展」と同時に「聖武天皇の大嘗祭木簡」という特集陳列が行われていました。平城京の発掘調査で出土した聖武天皇の大嘗祭にかかわる奈良時代の木簡の展示です。とても珍しい資料ですので、じっくり観覧していると「村社郷高負里大嘗分」と書かれた木簡の説明に「竹田家文書」と書いてありました。「村社郷高負里」というのは、奈良時代中ごろの徴税単位のことですが、どうして竹田家文書と書かれていたのでしょうか。

2つ目は、70年後の永祿5年（1562）の「備中国村社郷小河分坪付」で、「村社郷」の田などの土地のことが記録されたものです。この中に「たかう村」と見えます。この2つの史料が竹田家文書にあったことから、木簡の説明に「竹田家文書」と書いてあったのです。奈良時代の木簡に書かれた「村社郷高負里」は、約700年後の竹田家文書の中世史料に「村社郷」と「高生村」と見え、長い間人々の中で使われ続けていたことが分かります。

竹田家文書の中世史料の中には、備中国新見荘（現在の岡山県新見市）関係の史料が含まれ、この中に「村社郷高負里」に関する2点の文書があります。1つ目は、明応元年（1492）の「曾原忠職・忠家等連署売券」で、曾原忠職と忠家の二人が「村社郷之内高生村」にある田を売り渡したときの文書です。木簡の「高負」も文書の「高生」も、よみは「たかふ」や「たかう」で通じていると考えられます。

今回、福岡藩の儒学者の文書である「竹田家文書」に、岡山県の中世文書が含まれ、その中には古代の平城京とも関係する内容があることが分かりました。思いがけず福岡・岡山・奈良をつなぐこととなった竹田家文書ですが、これからも調査を進め、新しい発見を紹介していきます。

## ●問い合わせ先

心ふるさと館ミュージアム担当  
☎(558)2208